

## オンラインコミュニティ 配信テキストサンプル ③

### 【ウサイン・ボルトさんのコーチの金言①】

今日はボルトさんのコーチでもあったジャーメイン・シャン コーチ（以下シャンコーチ）のお話をさせていただきます。僕は26歳の時に、《才能》という言葉と闘っていました。

ビーチフラッグスで世界2位までできた僕は、課題だった走力の向上を目指し、陸上の専門家やチームを訪ねていました。『ビーチフラッグスで世界一になるために、もっと足が速くなりたいです！』

僕の投げかけに対し、返ってきた言葉は冷ややかなものでした。

「足の速さは、生まれもったものだから、大人になってから速くなるものではない」

スポーツ界で権威のある方だったり、陸上チームの人だったり、大学教授は、口を揃えて僕をそう諭しました。『ここまでなのか？…やっぱり無理なのか』何度もそう考えそうになりました。

いや、ほとんどそう思っていたと思います。でも、みんな無理だという事は言うけれど、その根拠を納得できるように説明してくれた人は、誰一人もいませんでした。

『皆が言っているから、無理なのだろうか』皆が言っているという事は正確な根拠にはならない。

『例え無理だとしても、その根拠を自分自身が、一度きりの人生で夢を諦める理由となりうるくらい明確に理解してから諦めよう』

僕は、ギリギリのところ、やっぱり納得出来なかつたんです。

そこで、最も《才能》があると言われている人と自分を比べたら、それが《才能》の差なのか、

そうでないのかがわかるのではないかと考え、ジャマイカに行くことにしたんです。

そして、ボルトさんが天才と仰ぐコーチの前に行き、日本で何回も打ちのめされた、あの質問を投げかけるのでした。

#### 『僕の足は、今からでも速くなりますか？』

この時、僕は別れる寸前の恋人に最後の言葉を聞き出す時のような、そんな心境でシャンコーチの目を見つめたのを覚えています。

すると、シャンコーチは、こいつ何を言っているんだ？という表情をしました。

あ、僕の夢は本当に終わったのかもしれない。覚悟しました。

#### 「速くなるに決まっているだろ」

「世界中の人たちは、ここにいるスプリンターが最初から速いと思い込んでいる。でもそれは違うんだ。

みんな少しずつ、本当に少しずつ、速くなる。ボルトだって、同じ道を歩んできているんだ」

「逆に、何故出来ないと思うんだ？」 シャンコーチは本気で僕に聞いてきました。

その時、消えかけていた僕の心の炎が、静かに燃え始めるのを感じました。

#### 「もちろん出来るよ。逆に、なぜ出来ないと思うんだ？」

「足の速さは才能だ。大人になってから足は速くならない。」

あなたなら、どちらの言葉を使いますか？

